

中之島センターリニューアル



夢はバラ色

泉谷 八千代*

Overview of Osaka University Nakanoshima Center renewal

Key Words : Renewal concept, Art hub, Plaza to empathize with life,
Return to Nakanoshima

2023年4月30日、大阪市北区中之島で、大阪大学中之島センターのリニューアルのお披露目が行われました。大学を卒業して40年以上放送局で働き、4月に「入学」したばかりの私も、関係者としてテープカットの場に立たせていただいたのですが、何とも隔世の感があり、複雑な感慨を抱いておりました。

関西経済の中心地、中之島にはかつて大阪大学の医学部と附属病院がありました。「白い巨塔」のモデルだった大阪人の誇りの施設の一つでした。中之島は、北は堂島川、南は土佐堀川に挟まれた中州です。江戸時代から日本各地の物産やオランダ・中国の荷が盛大に商われ、各藩の蔵屋敷が立ち並ぶ壮観な町だったと言います。近接地の北浜には適塾という蘭学塾が緒方洪庵によって開かれ、全国から学問を志す者たちが集い切磋琢磨。洪庵は当時流行した天然痘対策として徐痘館も設立、当時の対感染症の先進的医療機関を作り上げたのです。明治になり、その適塾を精神的源流として大阪大学の医学部と病院が誕生。およそ110年間、阪大といえば中之島というイメージを作り上げて来ました。当時は医学部、歯学部、理学部も中之島の住人でした。

そう、中之島は大阪大学の発祥の地なのです。



中之島センター外観

しかし医学部と病院、他の学部も全ては新たな地、吹田や豊中に次々移転。2004年、大阪大学中之島センターは、その跡地の一角に誕生したのです。

その建物も改修の時期を迎え、大阪大学創立90周年の記念事業として建替え計画が発表され、2年の工事を経て、この度新装再開となりました。総額30億円のプロジェクトです。

冒頭、複雑な感慨と書かせていただいたのは、古参の卒業生である私の予想を遥かに超える施設に仕上がっていたからです。

その感慨の元となった、各フロアのご紹介をしておきましょう。

全体の敷地は1000平米。延床面積8200平米、コンセプトは、文化・芸術・学術・技術の「四つの



* Yachiyo IZUTANI

- 昭56. 3 大阪大学人間科学部卒業
- 56. 4 日本放送協会入局
- 平23. 6 日本放送協会奈良放送局長
- 25. 6 日本放送協会人事ワークライフバランス推進事務局長
- 27. 6 日本放送協会松山放送局長
- 29. 6 日本放送協会アナウンス室長
- 令 1. 6 株式会社NHK文化センター取締役社長
- 3. 6 四国電力株式会社取締役監査等委員
- 5. 4 国立大学法人大阪大学理事(非常勤)

知」が交差する社会学共創、アート、産学共創のグローバル発信拠点をめざすもの！なんです。中之島は知のジャンル統合の場となりました。

1・2階はエントランスと交流を目的としたオープンスペース。吹き抜け階段の壁面には、現代芸術家森村泰昌さんのパブリックアート「塾生たち」。2m74cm×2m強の巨大作品です。制作にあたり森村さんご自身が洪庵に扮するだけでなく、学生や子供を公募。作品の中に登場させます。さらに、洪庵と妻八重の自画像も作品化。全三幅の『適塾の集い』となりました。これらが2階のカフェスペースからお茶を飲みながら眺めることが出来ます。贅沢です。さらにカフェスペースには70年万博関連の資料や当時の展示物で四谷シモンさん作の「ルネ・マルグリットの男」、敷地から出土した考古資料、もう一つの阪大の源流、懐徳堂の資料など興味の尽きぬ展示がなされています。



中之島センター森村先生作品

3・4階は何とアートの拠点、「中之島芸術センター」です。学生対象の授業はもとより、社会人の人材育成を実施する「アートスクエア」がコンセプト。音楽や演劇公演のためのスタジオや絵画・アート作品の展示スペースも設置しています。市民に向けたレクチャーやワークショップも開催し、様々な発信がなされています。

確かに中之島一帯は、美術館や博物館、図書館などが建ち、今や日本有数のアート・学術エリアです。9月には、芸術センターのスタジオで「ピアノ開き」が行われ、世界最小クラス、最古級のグランドピアノのお披露目コンサートが開催されました。歴史解説と楽曲の演奏。生きたリベラルアーツです。

この「生産と技術」が発行される頃には、オーストラリアの日系移民で写真家のムラカミヤスキチの写真展と関連の演劇が開催されます。また、昨年10月に始まった朝ドラ「ブギウギ」にちなんで作曲家服部良一と笠置シズ子の展覧会の企画も佳境です。

5階は社会学共創拠点「いのち共感ひろば」です。大阪大学が進めてきたSDGsの取り組みを具現化し、この中之島を拠点に企業や学校、自治体との取り組みをさらに強化する目的で作られました。公益財団法人稲盛財団のご寄贈を得て完成しました。

大阪大学の活動の基軸に「共創」という理念があります。社会とともに様々な課題を設定し解決の途を多角的に創り出す事です。

芸術センターでは芸術活動を通じて、そして社会学共創拠点である「いのち共感ひろば」は、一人一人が輝く社会を構想する社会ソリューションイニシアティブ (SSI) と、社会技術共創研究センター (ELSIセンター) の拠点となって社会の課題解決の実践的な活動を行っています。

大阪万博の期間中には「いのち宣言」を策定し、誰一人取り残さない社会を関西経済界とともに作る。その為の教育と研究をSSIが先導し、国際的な「いのち会議」を開催することを目指しています。ここ中之島がその最前線です。

階を進めましょう。6・7階は共創フロア、セミナー室です。8階はカンファレンスフロア。大会議室に20名使用可能な中会議室、海外からのVIP対応に最適な特別会議室などがあります。

9階は岸本忠三元総長よりご寄贈いただいた「サロン・アゴラ」。講演会や晚餐会、立食パーティな



中之島センター佐治敬三メモリアルホール

どのシーンに利用が可能です。岸木先生の絵画コレクションも見ることが出来ます。

そして10階。佐治敬三メモリアルホール。サントリーホールディングスからご寄贈の大ホールです。佐治敬三さんは大阪大学の卒業生でした。

ここでの国際学会を想像しましょう。深い秋の日、カンファレンスを終えたらもう7時。可動式スク

リーンが一斉に開くと、床から立ち上がるガラス窓一面に見事な中之島の夜景。そのあと、8階のサロン・アゴラに降りてリーガロイヤルホテル製の食事で晩餐会。グローバルなザ・ユニバーシティです。

大阪大学の中之島回帰。ここを起点として、関西とそして世界と繋がり、様々な試みと情報発信を展開して行きます。これからもご注目ください。

